



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ(3)

内田, 銀藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 4(5):575-585

(Issue Date)

1908-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051257>



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ (其三)

京都文科大學教授

文學博士 內田 銀藏

第三 蝦夷ノ移置ノ續キ

前段ニ於テ所謂俘囚ハモト日本人ノ夷地ニ没落シタルモノニシテ蝦夷ノ種族ニ非ズト云フ說モアル旨ヲ述ベ置キタルガ、此ノ說ノ根據ハ主トシテ續日本紀卷三十、神護景雲三年十一月己丑ノ條、及同書同卷、寶龜元年夏四月癸巳朔ノ條ノ記事ニアルモノ、如シ。今其ノ本文ヲ舉ゲンニ左ノ如シ。

(神護景雲三年十一月己丑、陸奥國牡鹿郡、俘囚外少初位上勳七等、大伴部、押人言傳、聞押人等、本是紀伊國名草郡片岡里人也、昔者先祖大伴部、直征夷之時、到於小田郡、島田村而居焉、其後子孫爲夷被虜、歷代爲俘、幸賴聖朝撫運、神武威邊、援彼虜庭、久爲化民、望請除俘囚名、爲調庸民、許之)

(寶龜元年夏四月癸巳朔、陸奥國黑川、賀美等一十郡、俘囚三千九百二十人言曰、己

等父祖本是王民而爲夷所略遂成賤隸今既殺敵歸降子孫蕃息伏願除俘囚之名
輪調庸之貢許之

此ノ二ケ條ノ記事ハ、一見、俘囚ガモト王民ニシテ蝦夷ノ爲メニ俘トセラレタルモノニ係リ、從テ本來日本種族ニ屬スルモノナルコトヲ證明スルモノ、如ク思ハルベケレドモ、少シク綿密ニ研究スルトキハ、其ノ決シテ然ラサルコトヲ發見スベシ先ヅ此ノ二ケ條ノ中、後者ニ見エタル王民ト云フ語ハ、必ラズシモ常ニ日本種族ノミヲ意味ストハ速斷スベカラズ、何トナレバ續日本紀卷二十、天平寶字二年六月辛亥ノ條ニハ、歸降ノ夷俘男女スベテ一千六百九十餘人ヲ永ク王民ト爲シテ以テ邊軍ニ充ツトアリテ、歸降ノ夷ヲ以テ永ク王民ト爲シタル適例モアレバ也。マタ此ノ二ケ條ニ於ケル俘囚等ノ奏言ハ、果シテ眞實ナルヤ否ノ疑問モ、或ハ起シ得ザルニ非ルベシ。但シ此ノ二點ハ、余今敢テ之ヲ言ハズ暫ク俘囚等ノ奏言ハ、總テ眞實ニシテ、而シテ寶龜元年ノ條ニ所謂王民ハ日本種族ヲ意味スト見做シ置カン。シカスルモ尙ホ此ノ二ケ條ノ記事ニ據リテ、俘囚ハ一般ニ日本種族ナリトハ斷ズベカラザル也。試ニ思ヘ、所謂俘囚ニシテ、若シ一般ニ日本種族ノ人民、蝦夷ノ爲メニ俘トセラ

レタルモノナランニハ、獨リ前記ノ二ヶ條ニ見エタル俘囚ニ限り、特ニ己レ等ノ父祖ガモト内地人ナルコトヲ申シ立テ、俘囚ノ名ヲ除カンコトヲ願ヒ出ヅル筈ナキニ非ズヤ、マタ之ヲ願ヒ出ヅルトモ、特別ニ其ノ願意ヲ許可セラル、筈ナキナリ然ルニカク願ヒ出デ、又之ヲ許サレタルヲ以テ見レバ、此ノ二ヶ條ノ場合ハ、本來俘囚ノ中ニ入ルベカラザルモノガ、俘囚ト誤認セラレタルモノト解釋セザルベカラズ。故ニ前ニ引ケル記事ハ、眞ノ例外ノ場合ニシテ、之ニ由リテ一般普通ノ場合ヲ推スベキニ非ズ。普通ノ場合ハ之ト異リテ、内地人ノ裔ニ非ルモノ、即チ夷種ニ係ルコト、却テコレニヨリテ推定セラルベキ也。(一)

(一) 前ニ舉ゲタル二ヶ條ノ場合ハ、俘囚ノ異例ニ屬スルモノナルコトハ、沼田賴輔氏モ既ニ之ヲ説カレタリ。(日本人種新論一三二頁)氏曰ク「多くの場合に於いて俘囚たるものは蝦夷人に屬するもの多きが故に、概して俘囚は蝦夷人の捕虜と見るも不可なきなり」ト。

俘囚ガ一般ニ内地人ノ後裔ニ非ズシテ、異種族ノモノタルコトヲ示ス一ノ例證トシテハ、吾人ハ、類聚國史卷百九十二、

(桓武天皇延暦十一年)冬十月癸未朔、陸奥國、俘囚吉彌侯部、眞麻呂、大伴部、宿奈麻

呂叙外從五位下、懷外虜也、

トアルヲ舉ゲントス。若シ俘囚ニシテ通常、内地人ノ夷地ニ没落シテ蝦夷ノ俘虜トナレルモノヲイヘルナランニハ、之ニ對シテ外虜ト云フガ如キ語ヲ用フル筈ナシ之ヲ外虜ト稱シタルハ、其ノ異種族ヲ以テ目セラレタルニヨルト云ハザルヲ得ザルナリ。又同書同卷、弘仁七年八月甲午朔ノ條ニ

勅夷俘之性、異於平民、雖從皇化、野心尙存、是以先仰諸國、令加教諭、今因幡伯耆兩國俘囚等、任情入京、越訴小事、

トアルモ、夷俘ト俘囚トヲ同一類ト見做シタル書キザマニシテ、二者ガ等シク夷種ヲ以テ目セラレシコトヲ徴スルニ足ルベシ。享祿本類聚三代格卷十八、貞觀十一年十二月五日ノ太政官符ニ於テモ、亦俘囚ト夷俘トヲ同一類ノモノト見做シテ記シアルガ如ク解セラル。サレバ俘囚モ概シテ夷種ナリシト見做スコト、穩當ノ見解ナリトス。

尙ホ日本後紀卷二十二、弘仁四年二月戊申ノ條ヲ見ルニ、

制、損稼之年、土民俘囚、咸被其灾、而賑給之日、不及俘囚、飢饉之苦、彼此應同、救急之

恩華蠻何限、自今以後、宜准平民預賑給例、

トアリ。若シ俘囚ニシテ一般ニ蝦夷ノ俘虜トナレル憐ムベキ内地人、及其ノ子孫ナリシナランニハ、之ヲ指シテ蠻トハ云ハザリシナルベシ。是レモ亦、以テ余輩ノ見解ヲ確ムルノ一ノ旁證ニ供スベキナリ。

但シ或ハ日本後紀卷二十一、及類聚國史卷百九十、蝦夷ノ部ニ載セタル弘仁二年十月甲戌ヲ勅ニ、

其蝦夷者、依請須移配中國、唯俘囚者、思量便宜安置、當土、勉加教諭、勿致騷擾、トアリ、續紀卷二十八、神護景雲元年冬十月辛卯ノ條ニ

自餘諸軍、軍毅已上、及諸國軍士、蝦夷俘囚等、臨事有效、應叙位者、鎮守將軍竝宜隨勞簡定等第奏聞、

トアルナドヲ見テ、蝦夷ト俘囚トハ各別ナリ、從テ俘囚ハ蝦夷ノ種族ニ非ルベシト思フモノアルヤモ測リ難シ。然レドモ余輩ヲ以テ之ヲ見レバ、此等ノ場合ニ於テ、蝦夷ト云フ語ハ、特別ニ限定セラレタル意義ヲ以テ使用セラレタルモノニシテ、即チ

未ダ其ノ獨立自治ヲ失ハズ、タトヒ皇化ヲ慕ヒテ服從來貢スルニ至リタルモ尙ホ充分ニ羈屬ノ關係ヲ生ズルニ至ラザル蝦夷ノ種族ヲ專ラ指示シタルモノ、如ク之ニ對シテ一旦既ニ羈屬ノ關係ヲ生ジ、邊疆ニ置カレタル城柵鎮所等ノ治下ニ立チ、若シクハ阿倍^{アベ}上毛野^{カミツタヌ}、大伴等ノ如キ名族ノ配下トナリテ之ニ從屬シ、同時ニマタ其ノ保護庇蔭ヲ蒙ルニ至リタル蝦夷種族ヲ呼ンデ之ヲ俘囚トイヘルモノ、如シサレバ俘囚ト蝦夷トハ、各別ノモノトシテ舉ゲラレタリト雖、ソハ主トシテ羈屬ノ關係ノ判然セルト然ラザルトニ基ク區別ニシテ、種族ノ性質ノ上ニ於テハ、二者實ハモト概シテ同一類ノモノタリシニ外ナラザルベキナリ。(二)

(一) 萩野由之氏ハ「俘囚夷俘ノ辨」ニ於テ、弘仁二年十月ノ勅ヲ引キ、之ニ就キテ俘囚ハ王民、蝦夷ハ異種ナルガ故ニ配置ノ地ニ寬嚴アリシト見ユト説カレタレドモ、管見ニテハ、俘囚ハ既ニ羈屬關係粗々確立シ居リ、之ヲ制馭スルコト比較的容易ナリシヲ以テ、當時戰後諸事多端ノ際成ルベク彼等ヲ其ノ故地ニ置キ、其ノ堵ニ安ンゼシムル方針ヲ探ラレシマデナリト思ハル。前後ヲ通シテ一般ニイフトキハ、俘囚ノ内地ニ移サレタルモノ甚ダ多キコト、既ニ前段ノ記事ニ見エタルガ如シ。

特別ニ限定セラレタル意義ニ於テ蝦夷ト云フ語ヲ用ヒタル例ハ既ニ日本紀ノ中ニ於テモ之ヲ見出スコトヲ得ベシ。日本紀卷二十六、齊明天皇四年秋七月ノ條ニ檢覆蝦夷、戸口與虜、戸口トアル即チ是レナリ。(三)茲ニ虜ト相對シテ蝦夷ト云ヘルハ專ラ未ダ充分ニ羈屬ノ關係ヲ生ズルニ至ラザル夷種ヲ云ヘルモノニシテ、而シテ虜ト云フハ、同ジク夷種ナルモ、羈屬ノ關係既ニ粗々確立スルニ至レルモノヲ指示セルコトナラン。即チ所謂虜ハ後ノ俘囚ニ當ルモノナラント思ハル。日本紀ニテハマタ後ノ俘囚ニ當ルモノヲ俘人トモ書セリ。(四)サテ虜及俘人ハ何レモ「トリコ」ト訓ミ、俘囚モ亦同意義ナルニ相違ナシト雖、其ノ眞ノ性質ハ文字通りノモノニハ非リシナルベシ。即チ普通ノ意味ニテノ俘虜ニハ非ズシテ、前述セル如ク單ニ羈屬ノ夷トイフ程ノモノト解釋セザルベカラザルナリ。

(三) 檢覆ハ恐ラクハ檢覈ノ誤ナラント云フ、蓋シ然ラン。

(四) 日本紀卷二十九、天武天皇十一年夏四月甲申ノ條ニ越蝦夷伊高岐那等請俘人七千戸爲一郡トアリ。其ノ俘人ト稱スルモノ蓋シ後ノ俘囚ニ當ルモノナリ。

夷俘ト云フ語ハ、蓋シモト蝦夷俘囚ノ略語ニシテ、即チ限定セル意義ニ於テノ蝦夷ト俘囚トノ雙方ヲ併セテ指示セル名稱ナリシガ如シ。蝦夷俘囚ト連テ記セル例ハ、前ニ引ケルモノ、外、續日本紀中、尙ホ所々ニ見ユ。(五)而シテ同書卷三十二、寶龜四年正月丁丑朔ノ條ニ文武百官及陸奥出羽、夷俘、各依儀拜賀トアリテ、其ノ續キ同年同月庚辰ノ條ニ、陸奥出羽、蝦夷俘囚歸郷ト記セルハ、同一ノ者ヲ前ニハ略シテ夷俘ト書シ、後ニハ委シク蝦夷俘囚ト記セルモノニシテ、即チ夷俘ガ蝦夷俘囚ノ略語ナルコトヲ示ス好適例ナリ。學者或ハ俘囚、夷俘名異ニシテ、實同ジト簡單ニ説キ去ルモノナキニ非ズト雖(六)ソハ未ダ論ジテ盡サル所アルヲ免レズ、其ノ原義ニ於テハ、夷俘ハ俘囚ト蝦夷トヲ併セテ意味セルナリ。又夷俘ト云フ語ノ用ヒ方ハ前後相同ジカラズ、或ハ轉ジテ專ラ限定セル意義ニ於テノ蝦夷ヲ意味スル如クニ此ノ語ヲ使用セル場合モアリ。例ヘハ類聚國史卷百九十延暦十一年十一月甲寅ノ條ナル夷俘ハ單ニ蝦夷ト云ハン程ノ意味ナリトス。(七)サレバカ、ル場合ノ夷俘ト俘囚トハ其ノ間ニ自カラ差別アリテ、二者相同ジカラザルコト固ヨリ論ヲ俟タザルナリ

(五) 例へハ續日本紀卷二十二、天平寶字四年正月丙寅ノ條ノ末竝ニ同書卷三十三、寶龜五年正月丙辰及庚申ノ條等ヲ參看セヨ。

(六) 日本地理志料卷之二十五、上野國碓氷郡俘囚郷ノ條、及大日本地名辭書三三〇九頁參照。邨岡夏弼氏ノ俘囚考ハ予未ダ見ズ。

(七) 十一月甲寅、饗陸奥夷俘爾散南、公阿波蘇、宇漢米、公隱賀俘囚吉彌侯部、荒島等、於朝堂院、阿波蘇隱賀並授爵第一等、荒島外從五位下、以懷荒也、詔曰、蝦夷爾散南、公阿波蘇、宇賀米、公隱賀、俘囚吉彌侯部、荒島等、天皇朝、爾參上仕奉、且、今者己國、爾罷去、天仕奉、止、白、止、聞、食、行、且、冠位上賜、比、大御手物賜、止、久、宣、又、宣、久、自、今、往前、母、伊佐乎、久、仕奉、波、益、々、須、治、賜、物、止、宣、大命、乎、聞、食、止、宣、

此ノ條ノ始メニ於テ爾散南、公阿波蘇、宇漢米、公隱賀ヲ夷俘トイヒ、次ノ詔ノ中ニテハ、同ジ二人ヲ蝦夷ト稱シタルヲ以テ見レバ、此ノ場合ニ於テハ、夷俘ハ專ラ限定セル意義ニ於テノ蝦夷ヲ意味セルコト明ナリ。而シテ同一ノ記事中ニ於テ、或ルモノヲ夷俘又ハ蝦夷ト呼ビ、他ノモノヲ俘囚ト云ヘルハ、其ノ間ニ於テ區別ノ立テラレ居リシコトヲ示ス明證ト云フベシ。

(八) 蝦夷ハ略シテ單ニ夷トイヘルコト多シ。前項ニ見エタル爾散南、公阿破蘇モ他ノ所ニハ夷爾散南、公阿破蘇トイヘリ又俘囚ハ略シテ單ニ俘トモイヘリ。類聚國史卷百九十延暦十一年正月丙寅及七月戊寅ノ條竝ニ弘仁五年正月丁卯ノ條等ヲ參看スヘシ。

夷俘ト云ハン代リニ夷虜ト云ヘル場合モアリ、其ノ例ハ三代實錄卷三十三、元慶二年三月二十九日ノ條、及同書卷四十、元慶五年八月十四日ノ條ニ見ユ。又出羽方面ノ夷俘ハ或ハ狄俘トモイヘリ、三代實錄卷三十七、元慶四年二月二十五日ノ條參照。

中古ノ書ニ見エタル夷俘、俘囚等ノ眞ノ性質、及蝦夷トイフ語ノ特別ナル用法ニ就キテハ、從來學者ノ研究尙ホ未ダ充分ナラズシテ、頗ル明瞭ヲ缺ケリ。而シテ之ヲ詳確ニスルコトハ、蝦夷移置ノ問題ヲ論ズルニツキテ、第一必要ノ事柄ナルヲ以テ余輩ハ其ノ一般讀者ニハ餘リ興味ナキコトナラントハ思ヒナガラモ、比較的多少ノ紙數ヲ費シテ、茲ニ粗々其ノ大要ヲ論辯シタリ。サテ是レヨリハ進ンデ内地ニ移サレタル蝦夷俘囚等ガ、課役ヲ免ゼラレシノミナラズ、衣服ヲ賜ヒ、糧ヲ給セララル、等、種々朝廷ノ優遇ヲ受ケタルコト、彼等ニモ口分田ヲ授ケ、而シテ少クトモ暫クノ間ハ田租ヲ免ジタルコト、彼等ヲ制馭スル爲メ、其ノ同類ノ中、衆ニ推服セラル、モノヲ擇ミテ之ガ長ト爲シ、マタ地方官ノ中ニ於テ專ラ夷俘ノ事ヲ擔當スルモノヲ定メシコト、彼等ヲ用ヒテ盜賊ヲ防ギ、及西海ノ警備ニ充テントシタルコト、彼等ノ容易ニ同化セザリシコト、又其ノ皇化ニ馴レ、華風ニ染ミシモノヲモ内地人等其ノ

姓名ヲ呼バズ、常ニ夷俘トイヒテ之ヲ賤ム風アリシコトナドヲ述べ、彼等ノ居住ガ諸國ノ地名ニ其ノ痕ヲ留メタルコト等ヲモ略說シ、以テ此ノ部分ヲ終リ、而シテ後次ノ題目、即チ所謂日本種族ノ移住ノ問題ニ移ルコト、スベシ

(未完)